

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470201308
法人名	有限会社 三聖
事業所名	グループホーム 桜園三聖
所在地 (電話番号)	四日市市高浜町5-7 (電話) 059-330-6665
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 14 日(金)

## 【情報提供票より】 (H19年8月29日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 8人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	軽重鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,550 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600円			

## (4) 利用者の概要( 8 月 29 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	越山クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に隣接し、すぐ近くには河川があり、堤防は桜並木道になっている。市街地にも近く、交通の便もよい。同敷地内に整骨院(代表母体)が開設しており無料マッサージのサービスが受けられる。また、事業所内にはデイサービスが併設され、にぎやかな声が聞こえてきている。地域の自治会との交流もよく図られ、明るくてさわやかな事業所である。職員もゆとりある介護を実践をしている。今後、利用者の重度化の介護に向けて医療体制の連携が整い、看護師による24時間オンコール体制もとられている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画書に家族の確認印なし、介護計画の見直しについては、話し合い改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と職員が話し合い管理者が意見をまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は本年8月に第1回を開催、今後は3ヶ月に1回開催予定事業所の状況報告、イベント紹介、施設見学を行った。自治会からは地域の高齢化に伴い在宅介護支援センターの併設の希望が出される等、地域との交流の機会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	過去に家族から衣服等についての意見があり、家族と話し合い意見を反映させていた。苦情相談窓口は、明記され苦情ボックスも設置されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の行事(納涼祭、文化祭)などに参加している。また、地域のボランティアの訪問を受け入れている。事業所の行事にも地域の住民が訪れている。利用者の作品を中学校の文化祭に展示する予定もある。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、安らぎとゆとりのある生活を地域との交流を継続しながら暮らせることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員が、毎日の申し送り、ミーティングの時に利用者の意思を尊重しながら理念の実践にとりくんでいる。(全職員の名札の裏に理念をプリントして携帯していた)		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の納涼祭等の行事に参加した時、利用者が手作りした花(紙)が、飾られてあった。事業所の行事に、地域住民がボランティアとして参加し地区の中学校からも福祉部の生徒が訪れるなど交流が多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が、職員と話し合い意見をまとめた。外部評価は、ミーティングで報告し改善に向けて、話し合い実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本年の第1回目は8月に開催され事業所の状況報告、家族からの意見も出されている。自治会からは地域の高齢化への対応等の意見も出された。会議での意見等はケアサービスの向上に生かすように努めている。	○	運営推進会議の開催については積極的に取組まれ、地域の自治会、学校等との連携もよい。今後も運営推進会議を定期的に行い、更なるケアサービスの向上に努めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市民ニコニコサロンに職員が出向き、介護予防体操等を実施して、市職員とは連絡をとっている。ケアサービスの疑問点等についても、市担当者に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者の日常の様子や行事への参加写真、金銭の収支報告等を文書で送付している。健康状態に気になることがあれば随時電話連絡をしている。職員の異動については文書で連絡している。	○	現在は「ホーム便り」は発行してなく行事の案内だけになっている。「ホーム便り」を復活させ、家族や地域へのPRとして進めてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口等は重要事項説明書に明記し説明もされ、苦情ボックスも設置されていた。家族から苦情、不満が出された時はよく話し合い、職員間でも検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動の場合は利用者伝える事になっている。退職者は退職後も時々事業所を訪れるなど、利用者が家族が困惑しないようにコミュニケーションを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は内容を選定し職員が順番に受講しており少なくとも年3～4回は参加している。受講後は報告もしている。事業所内では月1回のミーティングで勉強会をしている。最近では誤飲の介護を学び、吸引器が必要との意見があり、設置された。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月1回中勢地区で開催されている「木曜会」という同業者の集まりへ自主的に参加し、他の施設職員等と交流し情報交換をしてケアサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、でき得る限り事業所に何度か来訪してもらい、事業所の雰囲気に馴染んでもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と信頼関係を保ちながら、歌を歌ったり、CDの音楽を聴いたりと一緒に楽しんでいる。利用者のいつもと違う所も感じられた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで利用者一人ひとりの意向を把握するようにしているが、嗜好品等は日によって違ってくるが希望に添うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族等の意見、意向は把握されているが、関係者との話し合いはされず、介護支援専門員が計画を作成した後に管理者、職員に示されている。	○	本人、家族、職員等の関係者の意見をケアカンファレンスで検討されて介護計画を作成されるように望みたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は見直しされている。利用者の状態に応じて随時、話し合い見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の希望で、墓参り、自宅への帰宅、買い物、隣接の接骨院でのリハビリ、美容院の利用等に、職員と一緒に出かける支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族は希望のかかりつけ医に受診しているためホームのかかりつけ医への連絡はとりやすい。また、月1回協力医の往診があり、いつでも連絡は取れる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	去る4月に医療連携体制ができ利用者、家族への説明もされた。職員には終末期ケアの経験者がいないこともあり、今後に向けて終末期ケアの研修を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあった声かけは配慮されていた。職員は書類等の個人情報の取り扱いも研修を行い徹底している。利用者、家族にも説明して同意をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムは決まっているが、利用者の体調を配慮しながら、その時の気持ちを尊重して散歩、買い物にでかける、食事の準備を手伝う人等それぞれ利用者の意向にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	桜農園(事業所)で農作物(トマト、きゅうり)を栽培し利用者と共に収穫し食べることを楽しんでいる。食事の準備、後片付けができる利用者には手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。殆ど週3回は入浴してもらっている。入浴時間帯はゆっくりは入れるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、好きな事を見出し、食事の準備、花の水やり、野菜づくり、外出時の人のお世話等が役割にもなっている。歌を歌う、ぬり絵は楽しみのものである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回は、外出し食事をする、買い物、散歩にもでかけている。外出できない利用者には、中庭に出てティータイムを楽しんでもらうように心掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は開放的で出入りができる。玄関は自動ドアになっているが、施錠はされていない。夜間は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の住宅火災の体験もあり、去る4月消防署の指導で避難訓練、初期消火訓練も実施した。年2回は定期的に実施予定であり、地域の防災訓練にも参加予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者から購入し栄養摂取量は記載されている。食事摂取量も記録されていた。刻み食、とろみ食等一人ひとりに合ったものが出されていた。水分摂取量も把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはセンサーによってでる噴水、季節の花、腰掛が置かれていた。居間食堂には、イベントの写真が貼ってあり、中庭にはテーブル、椅子が置かれ居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、収納戸棚を設置。利用者それぞれにテレビ、仏壇、人形等が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるようになっていた。利用者同志が、居室で談話してくつろいでいた。		